

建築人

2022
2

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.692





建築人

2022.02 No.692

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「箕面滝道の橋本亭」2020年

第40回 大阪都市景観建築賞 大阪府知事賞 受賞作品

設計：アルファ建築設計事務所

施工：一字工業

撮影：砂田政樹 表紙・*1、奥田慎二郎*2

明治情緒溢れるたたずまいで箕面滝道の賑わいを担っていた橋本亭は平成28年の自然災害により損壊し全面撤去が決定。しかし100年以上にわたり親しまれ再築を望む声も多かったことから、市は復元を計画。景観の再現、部材の再利用など歴史を受け継ぎつつ、川床デッキを設けるなど新たな交流空間を創造し、令和時代の橋本亭に新たな使命を宿した。

2 大阪こちエエ

4 Gallery 建築作品紹介

「京都産業大学 天地館」

設計：日建設計

施工：フジタ

「淡路島さくらの家」

設計：井上久実設計室

施工：淡路工舎

「NUDE HOUSE prototype」

設計：松下建築設計 一級建築士事務所

施工：尾上工務店

10 動静レポート

11 Topics

12 インフォメーション・事業案内

14 記憶の建築

「東京文化会館」1961年

還暦を迎えた音楽の殿堂の今 / 松隈 洋

大阪こちエエ

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

今回は、大阪市浪速区恵比須にある今宮戎神社をとりあげる。その創建は西暦600年にまで遡り、推古天皇の御代に聖徳太子が四天王寺の建立に当たり、西方の守護神として尊崇せられたのが始まりと伝えられている。時代を経て大阪の町は商業の町として発展を遂げ、いつしか繁栄を祈念する神として信仰された。江戸期になると大阪は商業の町としてより一層繁栄し、神社も大阪の商業を護る神として篤く崇敬されるようになり、この頃から十日戎の祭礼も賑わいをみせ始めた。例年では、十日戎の祭礼で凡そ100万人の参詣者で賑わう。賑わいは違えど願いは一緒に、商売繁盛の契機にしたい。



建築人 No.692 2022年2月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報部門

編集 建築情報部門『建築人』編集部

部門長：飯田英二

委員長：荻窪伸彦（編集人代表）

編集人：梅田武宏 笠井志保 河合哲夫 茂籠一之
大松俊祐 橋本頼幸 牧野隆義 三谷勝章

武藤優哉 若江直生

事務局：山本茂樹 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和4年2月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961

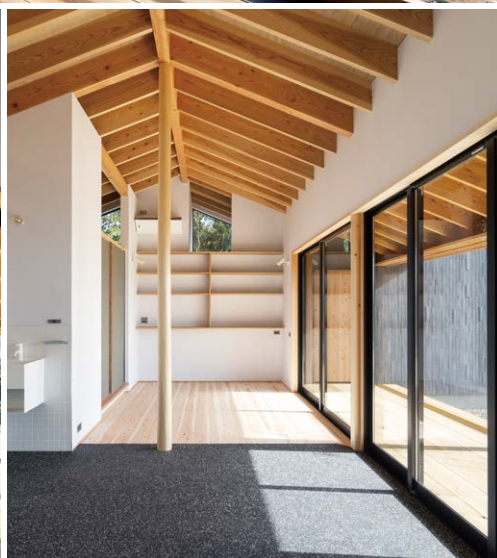
Gallery





風致地区のキャンパスにおけるマスタープランに基づく逐次建替え計画の一環で、購買や学生ラウンジを有する教室棟の計画である。キャンパス高台からの良好な眺望を享受しながら山並みにスカイラインを合わせてセットバックする段状テラスと、4階床レベルで既存棟との間に架け渡した大屋根下の広場により、屋内外に大小様々な学生の居場所を計画し、学生活動の拠点となるパブリックスペースを創出した。既存樹木を活かしながら教室を配置することにより、緑に包まれた眺望豊かな学習空間を実現している。屋根はプレキャストコンクリートとガラスにより形成し、雨や夏の強い陽射しを遮りつつも自然光を間接的に採りこみ、全天候型の広場空間として、学園祭等での活用も想定している。学生にとって居心地の良い学習空間となり、キャンパスで学ぶ意欲が高まる学び舎となれば幸いである。（若江直生）

★
所在地：京都府京都市
用途：学校
竣工：2021.09
構造規模：SRC造、RC造
地上4階
敷地面積：259,105.03㎡
建築面積：3,055.90㎡
延床面積：6,911.90㎡
写真：東出写真事務所
PRIZE★



計画地は、淡路島東海岸の生穂漁港の近く、急な坂道の先に現れます。南に大阪湾を望み、北に緑深い山をかかえるこの地に、スポーツ医学を専門とする医師の診療所兼住宅を計画しました。自然と共に暮らす静かな住まいであると同時に、風、虫・獣害などの自然の脅威への配慮が求められました。住居、診療所、浴室の高さの異なる3つのボリュームそれぞれがリニアに伸びる“縁側”を介して繋がります。“縁側”は、暮らしの中で各ボリュームをつなぐ“動線”だけではなく、自然を感じる“ルーム”と位置付けました。縁側の外表面に、蚊帳として可動式の網メッシュを張り、虫の防御と通風を両立させ、眺望を確保しています。やがてスポーツの場が提供され、地域の活性化に繋がる。この計画が、そのキッカケとなる事を期待しています。

所在地：兵庫県淡路市
用途：1戸建て住宅
竣工：2021.12
構造規模：木造
地上2階建て
敷地面積：664.66㎡
建築面積：149.98㎡
延床面積：148.15㎡
写真：富田英次



丸裸の家である。床壁天井の中と電気水道ガスの配線配管が丸見えである。それは地震・豪雨等の災害後または経年変化または将来の法律改正に伴う構造の耐震改修等に最小限の費用で誰もが簡単に更新できる家が必要と考えたからである。一般に災害・改修時に床壁天井を一度取り壊す等で経済的負担が増し結局改修できない例もある。そこで床下・壁内・天井裏をなくして構造体・配管配線を露出させ丸裸にして隠し事のない家にしようと考えた。露出した柱梁は構造用合板を直接張られて構造補強が簡単で経済的である。この家は一般の人のための経済的で手間なく更新して持続していくことを実現するSDGs時代の完成しない成長する建物である。(グッドデザイン賞2021受賞) (松下一樹)

所在地：大阪府
用途：戸建て住宅
竣工：2015.07
構造規模：木造軸組工法
地上2階
敷地面積：147.94㎡
建築面積：50.13㎡
延床面積：88.42㎡
写真：多田ユウコ

2022年 「建築人」作品募集

Gallery 掲載要項

Galleryとは…

公益社団法人大阪府建築士会は、会誌『建築人』を会員サービスの一環として毎月発行しています。発行部数は約3,000部で会員のほか、官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布しています。この『建築人』では、毎号「Gallery」というコーナーを設けており、皆様の建築作品を掲載しております。皆様の作品を本誌へ掲載しませんか？

掲載費用

100,000円(1頁カラー)

*①：初回割引 80,000円

(設計者および施工者が過去10年間、Galleryに掲載されていない場合)

*②：若手初回割引 50,000円

(40歳以下で建築設計事務所を主宰されて

いる方で*①を満たす方)

掲載概要

建築主、設計者、施工者、
協力会社、所在地、用途、
竣工年、構造規模、敷地面積、
建築面積、延べ床面積

掲載記事内容

写真4点程度

説明文章：約300字程度

Gallery

山芦屋の家 設計：マニエラ建築設計事務所
施工：近谷工務店



本敷地は山芦屋川沿いの閑静な住宅外に位置しており、敷地内に昭和2年に建てられた近代化遺産の蔵があり、当初よりこれを取り壊さずに活かして住宅を計画であった。敷地全体が築地蔵の蔵に囲まれて一定のプライバシーが確保されていることから、過剰では隠蔽的な開放性を持つ建物とし、お子様やご家族がいつも庭や自然と繋がっていられるようなプランが実現された。新築される母屋はモダンで軽快感のあるデザインとし、およそ100年前に建てられた蔵との重量感の対比、建築年代の差異が引き立つ。敷地の入口は市内にある建築家博物館を彷彿させる幾何学模様の門扉と、ライト設計の遊覧館と同じ大谷石張りの壁など、地域に根差した意匠の流れを汲んだ。

所在地：兵庫県芦屋市
用途：単独住宅
竣工：2021.02
構造規模：母屋 5.5坪
敷地面積：1,275.99㎡
建築面積：1,274.21㎡
延べ面積：444.80㎡
写真：下村孝典

建築人 2021.07 7

掲載作品は、同時に『建築人賞』候補に！

『建築人賞』とは

Gallery掲載作品は自動的に大阪府建築士会が毎年表彰している『建築人賞』の候補となります。(毎年1月号～12月号掲載作品)

『建築人賞』は、これまで13回を数える賞で、個人の審査委員長により選考します。

2022年は昨年に引き続き、建築ジャーナリストの磯 達雄さんをお願いしています。

賞には、「建築人賞」「建築人奨励賞」「建築人賞佳作」「建築人新人賞」があり、建築主、設計者、施工者に賞状が贈られます。さらに『建築人賞』の設計者の方には、記念品が授与されます。表彰は、5月(予定)に行われる建築士会の年次総会で表彰式を挙行しており、受賞される建築主、設計者、施工者の方に参加していただいております。



審査委員長 磯 達雄

1963年 埼玉県生まれ
1988年 名古屋大学工学部建築学科卒業
日経BP社入社「日経アーキテクチュア」編集部勤務(～1999年)
2001年～ 桑沢デザイン研究所非常勤講師
2002年 フリックススタジオ共同主宰(～2020年)
2008年～ 武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科非常勤講師
2020年～ Office Bunga共同主宰

会員
限定

建築士賠償責任 補償制度 (けんばい)

㊦ 建築士会

改正建築士法、2015年6月25日施行 「設計業務等に関する損害賠償保険の契約締結の 努力義務化(第24条の9)」

2014年度より、「法令基準未達補償」および「構造基準未達補償」の2つの補償を追加し、「滅失・破損」が発生しない場合でも一定の基準を満たさなかったために生じる損害賠償責任に対応できるように改定いたしました。

さらに、2016年度からは、耐震診断等の建物調査の遂行に起因して発生した対人・対物事故を補償する「建物調査遂行中の賠償責任補償」を、オプションとして追加しています。

設計・監理業務等に関する損害賠償責任	滅失・破損あり		↑ 2013年度までの けんばい ↓	↑ 本年度の 標準セットプラン ↓
		建築設備が著しく本来の機能を発揮できない場合の補償 (給排水衛生設備、電気設備、空調設備、住宅の遮音性能)		
	滅失・破損なし	法令基準未達補償 2014年改定 ※補償対象外とすることも可能です。		
		構造基準未達補償 2014年改定		オプション
建物調査遂行中の賠償責任補償 2016年改定				オプション

●法令基準未達補償

建築物の外形的かつ物理的な滅失または破損が無い場合でも、「所定の建築基準関連法令における基準」を満たさないことについての損害賠償責任を補償します。

●構造基準未達補償

建築物の外形的かつ物理的な滅失または破損が無い場合でも、「建築基準法第20条1、2、3号建築物」について、「建築基準法第20条に規定する構造基準」を満たさないことについての損害賠償責任を補償します。

●建物調査遂行中の賠償責任補償

耐震診断等の建物調査業務の遂行に起因して発生した対人・対物事故について、法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害を補償します。
ただし、建物調査業務の結果により発生した事故は補償の対象外となります。

ご加入はWebで

公益社団法人日本建築士会連合会
のホームページ

刊行物案内と保険制度
>「保険制度」のご案内

2020年度
けんばい 新規加入の方。

設計・監理業務等のリスクに備えた
建築士会会員のための補償制度

公益社団法人 日本建築士会連合会

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館 5階
TEL: 03-3456-3273 FAX: 03-3456-2067
<http://www.kenchikushikai.or.jp/>

取扱代理店 株式会社 エイアイシー

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-3-8 丸増麹町ビル 2階
TEL: 03-6272-6206 FAX: 03-6272-6209

引受保険会社: (幹事) 東京海上日動火災保険株式会社・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社・三井住友海上火災保険株式会社

この案内は建築士賠償責任補償制度(けんばい)の概要についてご紹介したものです。保険の内容は建築士賠償責任補償制度のパンフレットをご覧ください。
詳細は保険約款によりますがご不明の点がありましたら、下記までご連絡ください。なお、保険の内容につきましては、取扱保険代理店よりご案内させていただきます。

会長動静

- 12/28 日本設計関西支社長と面談
- 1/ 4 日刊建設工業新聞社賀詞交歓会
- 1/ 7 全日本不動産協会大阪府本部長来訪
- 1/10 総合資格学院合格祝賀会
- 1/11 大阪府収用委員会
- 1/12 全日本不動産協会万博検討会
- 1/14 運営部門会議
- 1/19 理事会、正副会長会議
- 1/20 日本建築士会連合会理事会
- 1/21 近畿会長会議
- 近畿建築士会協議会

1 月度 理事会報告

(1) 入退会の承認

(人)	12 月	入会	退会等
正 会 員	2,420	5	10
準 会 員	38	0	0
特準会員	27	0	0
賛助会員	141	3	0
計	2,626	8	10

(2) 会計報告

(円)	12 月計	累計
収入	14,565,838	108,348,154
支出	16,153,864	101,423,404
差引	△ 1,588,026	6,924,750

上表の当期経常増減明細を承認した。

(3) 本年度収支の決算見込み

本会の現時点での年度末決算を試算し、約 190 万円の赤字見込みを報告しました。昨年から続く新型コロナ禍の影響で、研修会や見学会等の延期や受講者数が制限されたことの影響は大きく、研修形態を Web 仕様へ移行する工夫を重ねていますが予算に対する収支規模及び収支差引ともに低迷しています。

定期講習、既存住宅状況調査技術者更新講習などの受託事業は感染防止対策のうえで実施していますが対象受講者の減少が影響しています。一方で空家撤去業務やマンション支援アドバイザー業務は予算を上回り、かつ社会貢献活動としても

評価されています。

申請受付中の建築士登録業務は、登録時に実務経歴が必要になり、これまでの合格者＝登録者に限らないことから登録者数に不確定要素があります。

これから年度末まで事業の回復や支出を緊縮して赤字決算の回避を怠らないこととしました。

(4) IT 部門による電子建築士会を目指すための役員・委員向けアンケート結果を速報し、具体的かつ積極的な意見や提案を受け、IT を活用した今後の活動の在り方や事務局の改善に向けて具現化を図ります。会長から本会のデジタル化は最優先かつ最重要な取り組みとしました。

(5) クラウドファンディングは、目標額 45 万円に対し、現在の支援総額 181 千円を報告しました。金額の達成も含めて何人が協力したかも重要な要素としました。また、クラウドファンディングの関心は高く SNS を駆使して本活動の周知を高めるようこれからも進めてまいります。

(6) 1 月 29 日の近畿建築祭「兵庫大会」は、コロナ禍で中止が決定されました。

令和 4 年度定時総会の 70 周年記念講演講師は香山壽夫氏に決定

5 月 18 日の総会の 70 周年記念講演の講師に香山壽夫氏（写真）から快諾いただき決定いたしました。



氏は 1937 年生れで、東京大学名誉教授・香山研究所会長です。

略歴は、1960 年東京大学工学部建築学科を卒業後、1965 年にペンシルバニア大学大学院を修了され、アメリカやイギリスで設計に従事され、1972 年に設計組織香山アトリエを設立、東京大学工学部教授をはじめ他大学の教授を歴任され、現在に至ります。

代表作には、ロームシアター京都、東京

大学伊藤センター、熊野本宮館、聖学院大学礼拝堂、函館トラピスチヌ旅人の聖堂、彩の国さいたま芸術劇場などがあり、2021 年の日本建築学会大賞をはじめ、日本芸術院賞、村野藤吾建築賞など多くの賞を受賞されています。なお、定時総会のご案内は、4 月及び 5 月号の建築人に同封します。

被災建築物応急危険度判定連絡訓練

1 月 17 日に、府建築防災課による標記連絡訓練が実施され、本会も府と協定締結していることから参加しました。南海トラフ巨大地震が午前 9 時 30 分に発生したと想定し、府と市町村による状況調査を経て、応急危険度判定士の派遣要請が建築 4 団体に発出されました。本会では、新規導入した Microsoft Forms によるアンケートを登録判定士へ配信し、128 名（派遣対応可 110 名、不可 18 名）の回答を府へ報告いたしました。今後とも継続的に訓練を行い災害発生に備えます。

枚方市災害対策本部訓練（図上訓練）に見学参加

1 月 14 日に枚方市役所で災害対策本部訓練（図上訓練）が実施され、本会は市と避難所の応急危険度判定に関する協定を締結していることから見学参加しました。「コロナ蔓延下での水災害を対象とした訓練を実施し、水害タイムラインに基づく実施要項を確認するとともに、浸水想定区域内住民の避難に係る具体的要領等について検討し、水災害に対する市の災害対応能力向上を図る」ことを目的として市役所内に災害対策本部と本部事務局が設置されていました。

そこでは、TV 会議システムを活用しながら、避難行動要支援者名簿システムの運用についての訓練等が行われ、コロナ陽性者及び濃厚接触者の受け入れについても意見交換されました。

市担当者と本会を含めた協定締結事業者の意見交換を行い、事業者同士の連携体制を整える提案もありました。

「聖徳太子と四天王寺」講演会 第一回 ～四天王寺の歴史と信仰の広がり～

日程：令和3年12月16日（木）
会場：大阪府建築士会 東会議室
参加者：28名

竹田敦子（理事）



事業部門シニアサロンでは、聖徳太子千四百年御聖忌に寄せて、大阪市民に愛され続けてきた聖徳太子と四天王寺の歴史を三回シリーズで企画し、このたび第一回目を開催いたしました。

一本崇之氏（四天王寺勸学部文化財係主任・学芸員）を講師にお迎えし、聖徳太子の偉業や仏教美術のお話のほか、四天王寺の歴史や建物の変遷をはじめ四天王寺と法隆寺の瓦のことまでお話が広がりました。

これまで学校の授業や漠然と耳にしてきた聖徳太子の功績と伝説の知識はありましたが、日本の社会福祉の先駆けとなった「四箇院（しかいん）の制」があったことを初めて知りました。

四箇院とは、寺本体の仏法修行の道場の敬田院（きょうでんいん）、薬局の施薬院（せやくいん）、病人や身寄りのない老人のための福

祉施設の悲田院（ひでんいん）、病院の療病院（りょうびょういん）の4つの役割に分かれています。千年以上前に弱者救済の制度がなされていたことには驚きです。

また、四天王寺の西門（極楽門）から極楽浄土の東門までは一直線に繋がり、春秋のお彼岸には西門の外にある石鳥居の真ん中を夕日が通ってくるという、自然を取り込んだ大掛かりなイリュージョンによって、極楽浄土をイメージする仕組みがありました。

人々は夕日に包まれ、ありがたいお念仏を唱えたことでしょう。石鳥居の前の海はいま街に変わっていますが、現世の私たちもお彼岸には往時の人々と同様の体感が出来るといことです。

戦火や自然災害で何度も伽藍を失いながらも、いつの時代も多くの人が参詣に訪れ、聖徳太子信仰の殿堂として大阪庶民の心の

拠り所となっている四天王寺の存在をあらためて認識いたしました。

一本講師のやさしい語り口でのお話に引き込まれたあつという間の90分であり、ご講演のあとは心に温かいものが残りました。

来る3月15日の第二回目と5月19日の第三回目は、四天王寺に場所を移し、講演会に併せて境内の建物と宝物の数々をご案内いただく予定です。是非、ご参加ください。



愛珠幼稚園・小城製薬株式会社本社社屋見学会

日程：令和3年12月11日（土）
会場：愛珠幼稚園・小城製薬株式会社本社
参加者：30名

所 千夏（理事・ヘリテージ委員会委員長）



コロナ禍の中、文化庁地域文化財総合活用推進事業の補助を受けて開催した第9期大阪府ヘリテージマネージャー育成講座は全課程を無事終了いたしました。

育成講座は、演習を除き、主として座学で構成されています。座学ばかりでは歴史的建造物の空間や周囲のまちなみを充分味わえないと考え、講座開始前の午前中を利用し、オプション見学会を合計4回企画しました。

表題の見学会は、第8回講座に講師をしてくださった（株）鳥羽瀬社寺建築の鳥羽瀬公二先生にご紹介いただき、昨年12月、（株）鳥羽瀬社寺建築が再生・修復にかかわる、愛珠幼稚園と小城製薬株式会社本社社屋を、今回の企画趣旨に賛同いただいて特別に見学させていただいたものです。

愛珠幼稚園は現存する最古の幼稚園園舎で、重要文化財に指定されています。平成26

年より耐震補強工事に着手、主としてその工事状況等を中心に（株）鳥羽瀬社寺建築社長稲岡信義様に園舎をご案内いただきました。耐震補強工事のために解体したところ、建物の破損が想像以上であったため、事業期間が大幅に延び、最終的に平成30年3月までかかったそうで、大変な現場状況を、明治に完成した園舎の空間を肌で感じながら、お聞きすることができました。

また、小城製薬株式会社は昭和5年創業、創立92年を迎える製薬会社です。その本社社屋は文化財ではないものの、1760年（宝暦10年）完成の深い歴史を感じる空間でした。昭和30年から本社社屋として使われ、昭和、平成、令和と時代を重ね、節目で大改修を繰り返し、今まさに「令和の大改修」を進めておられる真っ最中です。

社長の小城忠明様は、見学会の下見の時に

お目にかかり、快く見学を承諾くださいました。社長小城様と設計者Morizo内田利恵子様は残念ながら当日ご都合がつかせんでしたが、事前に気を配ってくださり、当日は施工担当の（株）鳥羽瀬社寺建築の日隈慶様、北岡圭三様に現場をご案内いただきました。関係者皆様のこころ配りとご協力に支えられて、大変貴重な体験をさせていただくことができました。ここに御礼申し上げます。



建築士会からのお知らせ

本会主催の講習会等では座席の離隔距離確保等の新型コロナ感染防止対策を行います。受講者におかれましてはマスク着用、手指のアルコール消毒等のご協力をお願いします。感染状況によっては延期、中止となる場合がありますので、最新情報は本会HPでご確認ください。本会以外の事業は主催者にお問い合わせください。

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。本年6月1日より、広域緊急交通路沿道ブロック塀等耐震化促進事業（補助金）における耐震評価機関となりました。スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞご利用ください。
 （業務内容）
 耐震診断報告書の審査、評価
 耐震補強計画案の審査、評価 等
 （対象建築物）
 公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。
 （会員特典）
 申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10％割引があります。

令和3年度建築士定期講習
3/3、3/10、3/16、3/31 CPD各6単位
2/16、3/30 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成30年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。
 ▼DVD講義
 日程・会場・定員
 ※3/3(木) 大阪府建築健保会館6階 45名
 ※3/10(木) 大阪府建築健保会館6階 45名
 3/16(水) 大阪府建築健保会館6階 45名
 3/31(木) 大阪YMCA会館2階 100名
 時間 9:15～17:00
 受講料 12,980円（消費税含。事前振込）
 申込方法

申込用紙を建築技術教育普及センターHPからダウンロードしてください。
 （平成30年度受講者には、同センターから直接申込書を郵送しています。）
 ご記入後、大阪府建築士会又は大阪府建築士事務所協会事務局へ持参していただくか、簡易書留にて郵送してください。
 受付場所（送付場所）
 ※印の日程 大阪府建築士会事務局
 ※印以外の日程 大阪府建築士事務所協会事務局

建築技術教育普及センターHPからWEB申込みも可能です。
<https://jaeicktosyu.jp/jaeichteikikosyu/>
 注）定員に達し次第、受付を終了します。

▼「WEB動画配信」による建築士定期講習
 各自都合のよい時間にWEB動画により受講いただき、修了考査のみ会場に来ていただく形式です。
 修了考査日程・会場・定員
 2/16（水）大阪府建築士事務所協会 1日3回各16名
 3/30（水）大阪府建築士会 1日3回各20名
 受講料 12,980円（消費税含。事前振込）
 申込方法
 建築技術教育普及センターHPからWEB申込
<https://jaeicktosyu.jp/jaeichteikikosyu/>
 注）定員に達し次第、受付を終了します。

既存住宅状況調査技術者講習
更新講習（DVD講習）
2/15 CPD2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士の方に認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。なお、2018年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。
 ▼更新講習（DVD講習）
 日時 2/15（火） 13:30～16:50
 会場 本会会議室
 定員 各20名（定員に達し次第締切）
 受講料 郵送申込17,600円
 WEB申込17,000円
 ▼申込
 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。

令和3年度監理技術者講習
（監理技術者以外の方も受講可能）
2/18、3/9 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講ください。
 日程 2/18（金）、3/9（水）

時間 8:55～17:00
 会場 本会会議室
 定員 各回20名（定員に達し次第締切）
 受講料 WEB申込み9,500円
 郵送申込み10,000円
 申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。
<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

大阪府知事指定講習
2021年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法》
2/17 CPD5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。（本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。）
 日時 2/17（木） 10:00～15:50
 会場 大阪府建築健保会館6階ホール
 最寄駅 大阪メトロ「谷町四丁目」下車
 定員 40名（定員になり次第締切）
 受講料 本会会員5,000円
 会員外9,000円
 テキスト代 7,300円（2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法）
 ※受講料及びテキスト代金は、事前にお振込み願います。その際振込手数料はご負担願います。

はじめよう、文化財の活用
2/19

毎回異なる国登録有形文化財を会場に、建物見学やワークショップ、周辺のまち歩きを行います。所有者から保存と活用の取組み事例や課題についてのお話を伺いながら、活用を通じて文化財を保存する力、いわゆる「文活BUN・KATSU」を学ぶ講座です。
 2/19（第5回）
 「水引で愉しむ雛の節句」
 日本の伝統の和紙と水引で雛の節句きな粉包みを作ります。水引の「あわじ梅結び」と心を贈る折形の包みをご紹介します。日本古来の包み結ぶ文化を愉しんでみませんか。
 日時 2/19（土） 13:30～16:30
 会場 願得寺（国登録有形文化財）
 門真市御堂町8-23
 講師 淵本裕子（和のコトデザイン）
 定員 24名
 受講料 1,500円（定員に達し次第締切）
 申込方法 必要事項（名前、住所、メールアドレス、携帯番号、同伴者の名前）を heritage@aba-osakafu.or.jp へメール又は06-6943-7103へFAX。
 後日、参加証のメール等予定。（集会所など記載）
 詳細は「大阪文化財ナビ」に掲載。

クラウドファンディングを活用し、本会と地域住民がまちづくり活動を応援します
12/17～2/15

本会では、大阪府内で活動する建築士を含む団体の活動に対し、平成10年より地域貢献活動助成を行ってきました。本年度まで24年間にわたり合計31団体の活動に助成を実施し、大阪のまちづくり活動の活性化に貢献しています。
 この度、地域のまちづくり活動を地域住民が応援するという理想の姿を目指し、クラウドファンディングによりその資金を集めることとしました。
 助成に関する募集とその活動内容の審査は引き続き本会が行うこととし、本会と地域住民が協力し、大阪のまちづくり活動を応援していきます。
 テーマ （仮）コロナ禍を乗り越え頑張る大阪のまちづくりを応援したい
 期間 12/17（金）～2/15（火）
 目標金額 45万円
 支援金額 500円、1,000円、3,000円、10,000円
 プラットフォーム READY FOR（All in・寄付型）
 リターン ご支援頂いた助成活動の年間活動内容を報告等。詳細はREADY FORのHPをご覧ください。
 ※ご支援頂くに際し、「READY FOR」への登録が必要です。



第2弾! “ささっと”描けるスケッチパース
2/21 CPD2単位（予定）

令和2・3年度建築士試験に合格された皆様に向けてのお祝い企画です！ さらに…「もう一度」という声にお応えした第2弾企画！お施主様との打ち合わせにおいて、“ささっと”と手際よくスケッチパースが描けたらいいな…と思われたことはないでしょうか？今回は、彩色のコツを中心に学びます！もちろん、初めての方でも大丈夫!!
 日時 2/21（月） 18:00～20:00
 会場 本会東会議室
 定員 先着順 限定25名
 参加費 会員1,500円 会員外2,000円
 令和2・3年合格者 会員1,000円 会員外1,500円
 講師 藤山 文

INFORMATIONの詳細は本会ホームページに掲載しています。本会の事業はホームページから申込できます。
【大阪府建築士会】大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5階 <http://www.aba-osakafu.or.jp/>
メール info@aba-osakafu.or.jp TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

(公社)大阪府建築士会・大阪弁護士会共催
建築紛争セミナー6(建築相談委員会セミナー)
「建築工事の中断」
2/28 CPD2単位(予定)

本会では建築紛争解決や鑑定に必要な専門知識をもつ人材の育成に力を注いでいます。今回は建築工事が中断した場合の法的・建築技術的な処理の仕方について、工事の段階や契約形態などに分類して、弁護士と建築士の対談方式で検証・議論いたします。
日時 2/28(月) 18:00～20:00
会場 大阪弁護士会館
(大阪市北区西天満1-12-5)
会場・オンライン配信併用(予定)
定員 100名(定員に達し次第締切)
参加費 無料

BIMの有効活用と最新動向
『BIMポータルフォローアップセミナー』
3/11 CPD2単位(予定)

大阪府建築士会賛助会員のグラフィソフトジャパン、福井コンピュータアーキテクトによるBIMの有効活用と最新動向をテーマとしたセミナーです。本セミナーは2021年9月に公益財団法人日本建築士会連合会ホームページで公開されておりますBIMポータルサイトのフォローアップセミナーです。これからBIMに取り組まれる、更にBIMの活用を検討したい等、BIMの有効的な使い方や最新動向を説明致します。
■セミナー1
『さあ!あなたもBIMで設計する時期(とき)ですよ!』BIMでのデザイン～図面化を分かり易く説明致します
グラフィソフトジャパン
■セミナー2
『BIMを活用した建築確認の現状と可能性』
福井コンピュータアーキテクト
日時 3/11(金) 14:00～16:20
会場 TOTOテクニカルセンター大阪
大阪市中央区久太郎町3-6-8
御堂筋ダイワビル2F
※感染症の状況によっては会場を変更する場合がございます。
定員 30名(定員になり次第締切)
受講料 会員1,000円 会員外1,500円

聖徳太子千四百年御聖忌に寄せて
『聖徳太子と四天王寺』
第二回 四天王寺の歴史と宝物
講演と見学会
3/15 CPD2単位(予定)

本会では、聖徳太子と四天王寺をテーマにした講演会を全三回のシリーズ企画として開催しています。第二回は、四天王寺の歴史と四天王寺が所蔵する国宝・重要文化財の解説に併せ、宝物館や境内をご案内いただきます。四天王寺の歴史とともに、信仰のもとに生まれた多様な宝物をご紹介します。

日時 3/15(火) 14:30～16:30
会場 四天王寺 本坊 安養殿
定員 40名
参加費 会員1,500円 会員外2,000円
講師 一本崇之
四天王寺勧学部文化財係主任学芸員

WEB講習会
「都市計画の最新動向と開発許可制度の運用・活用」
3/18～31 CPD3単位(予定)

都市計画の最新動向に詳しい学識経験者、開発許可行政担当者と実務に精通するコンサルタントを招いて、持続可能な新たな都市計画やまちづくりの方向性を展望するとともに市街化区域と市街化調整区域における新たな基準を含む開発許可制度の運用と具体的な活用に向けた講習会を開催します。
日時 3/18(金)10:00～3/31(木)終日
会場 Microsoft TeamsによるWEB講習会
受講料 建築士会会員3,500円
後援団体会員4,500円
一般5,500円

耐震インスペクション委員会オーブン勉強会
古民家としての開放性を残しつつ性能を満足する
「垂れ壁を用いた土壁構面の評価!」
3/25 CPD2単位(予定)

大阪産業大学准教授の北守顕久先生より、自邸(K邸)を古民家改修の形で建てその構造設計を担当するにあたり、自身が研究として開発してきた要素や伝統工法の耐震性評価に関する考え方を取り入れ、古民家としての開放性を残しつつ性能を満足する、興味あるお話をいただきます。
日時 3/25(金) 18:00～19:30
会場 WEB講習
定員 50名(定員に達し次第締切)
費用 会員1,000円 一般2,000円

第1回・第2回大阪府ヘリテージマネージャー・スキルアップ講習
(令和3年度ステップアップ講座兼用)
2/23、3/5 CPD各4単位(予定)

スキルアップ講習とは、ヘリテージマネージャーを主に対象とし、さらなる研鑽によってそのスキルを向上させることを意図した連続講座です。次年度にわたり全6回開催を予定しています。(全6回受講された方には修了証を発行予定。)
■第1回スキルアップ講習
日時 2/23(水・祝) 13:00～17:00
会場 大阪市中央公会堂 小集会室
①「歴史的建造物とまちなみの保存・修復」
講師 後藤治(工学院大学理事長、全国HMN協議会運営委員長)
②「大阪府文化財保存活用大綱及び府内の文化財保存活用地域計画」

講師 土屋みづほ、神谷悠実
(大阪府教育庁文化財保護課)
■第2回スキルアップ講習
日時 3/5(土) 13:00～17:00
会場 奥野家住宅(桜の庄兵衛ギャラリー)
①「文化財保存活用計画の意義とその実践－新たな局面に入った文化財保護行政の動向－」
講師 村上裕道(京都橋大学文学部歴史遺産学科教授)
②「保存活用地域計画と支援団体／保存活用計画の策定～和歌山県の活動から」
講師 中西重裕
(一級建築士事務所K&Nアーキテクト主宰／和歌山県建築士会副会長、／全国HMN協議会運営委員会副委員長)
受講料 建築士会会員・ヘリテージマネージャー(他府県含む)・本年度育成講座受講生、学生1,000円
上記以外2,000円(第1回、第2回共)
定員 各40名(申込先着順)

その他のお知らせ

被災建築物の応急危険度判定(養成)講習会
2/15 CPD3単位

地震等により被災した建築物の余震等による倒壊、部材の落下等から生じる二次災害を防止するため、被災建築物の応急危険度判定を行う大阪府被災建築物応急危険度判定士を養成する講習会です。判定士の資格をお持ちでない方はぜひ本講習会を修了され、判定士へのご登録をお願いいたします。
日程 2/15(火)
時間 受付12:30～ 講習13:15～17:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 40～80名(新型コロナウイルス感染防止対策のため調整します)
受講資格 大阪府内在住または在勤の一級建築士、二級建築士、木造建築士並びに建築基準適合判定資格者及び特定建築物調査員
※本講習会は応急危険度判定士に登録される方を対象としています。
受講料 無料
テキスト代 税込み1,600円(特別価格)
申込・問合せ (一財)大阪建築防災センター
企画耐震部
Tel.06-6942-0190

近代建築の幻燈上映会13
2/19

懐かしい明治・大正・昭和の学校建築を見ながら現在の学校で見られない古き良き時代を想い出してみたいと思います。
日時 2/19(土) 11:00～
会場 堺市立東図書館(北野田駅前)

申込 不要(参加自由)
講師 明治建築研究会 代表 柴田正己
問合せ 明治建築研究会
Tel.090-4289-1492

我が町「堺」再認識
堺歴史文化景観フォーラム
2/23 CPD3単位(予定)

我が町「堺」には沢山の歴史文化資産があります。資産そのものとあわせてその景観は、地域の営みに関わる一人ひとりが長い歴史の中で培われ守り育まれてきたものです。その代表である世界文化遺産百舌鳥古墳群及び周辺地域と堺環濠都市地域は、古代から中世、近世、近代そして現代が重なり合う歴史文化景観として次世代に引き継ぐべきものです。そこで、世界文化遺産百舌鳥古墳群及び周辺地域と堺環濠都市地域について、増田昇(大阪府立大学名誉教授)、藤田忍(大阪市立大学名誉教授、(公社)大阪府建築士会理事)、間宮吉彦(大阪芸術大学教授)、川上浩(堺ユネスコ協会会長)、4名の専門家の知見から、市民の「まち」「空間」に対する意識の醸成と景観形成に向けた「取組の輪の拡大」と「景観の保全・整備の推進」を探ります。様々な参加団体の展示・紹介もあります。
日時 2/23(水・祝) 12:00～16:00
場所 フェニーチェ堺大スタジオ
定員 100名(申込先着順)
参加費 無料
申込・問合せ 堺ユネスコ協会事務局
Tel.072-299-2323
e-mail:6711002yn@iris.eonet.ne.jp

我が町「堺」再認識
堺歴史文化景観まち歩き
3/27 CPD3単位

世界文化遺産百舌鳥古墳群について専門家と歴史文化を学び、風景を発見し、景観写真を撮影する堺歴史文化景観まち歩きを行います。
日時 3/27(日) 13:00～16:00
集合 13:00 中百舌鳥駅西側駅前広場(時間厳守)
定員 30名(申込先着順)
参加費 500円(青少年は15名まで無料)
申込期間 1/4(火)～3/11(金)
申込・問合せ 堺ユネスコ協会事務局
Tel.072-299-2323

還暦を迎えた音楽の殿堂の今

東京文化会館 一九六一年

文・写真 松隈 洋「京都工芸繊維大学教授」

二年ぶりになるだろうか。二〇二一年十二月初旬、新型コロナウイルスの感染拡大が小康状態の中、上京して上野公園を訪れる機会があった。二〇一六年にユネスコの世界文化遺産に登録されたル・コルビュジェの国立西洋美術館（一九五九年）に所用があったからだ。現在、二〇二二年春の再開へ向けて、本館の空調等の改修と共に、前庭の整備工事が進められている。これは、世界遺産の登録に併せて一九九九年に改変されていた前庭を、創建時の

男の設計を手がけた東京文化会館にとっても、大きな意味を持っている。というのも、一九五七年五月から同じル・コルビュジェ門下の坂倉準三と吉阪隆正と共に西洋美術館の実施設計に半ば手弁当で協力することになる前川は、その直前の同年一月に、十一名の設計候補者の中から特命で東京文化会館の設計委託を受け、基本設計に取り組み始めていた。そのため、前川は、ル・コルビュジェの意図した西洋美術館の広場と建築の造形と呼応させようと考えたのだ。大ホール・ホワイエの正面に大きなテラスを設け、対面の西洋美術館の前庭の広場との連続性を持たせた。また、建物全体の特徴的な外観を形づくる大きな庇の頂部の高さを、西洋美術館の軒の高さに揃えていく。さらに、ランダムに刻まれた前庭の床目地を、大ホール・ホワイエのテラスまで延長させ、そのままホワイエを取り囲むスチール・サッシュの堅枠の位置にも延長する。そして、大ホールの客席と舞台、小ホールの外壁は、西洋美術館に倣い、大理石の碎石を打込んだプレキャスト・コンクリート版で覆ったのである。

こうして、そこには、ル・コルビュジェが、坂倉からの個人的な要望に応じて、本館と共に西洋美術館の基本計画に盛り込んだ「不思議の箱」と名づけた実験劇場と企画・巡回展パビリオンによる三つの建物と広場から構成される群造形の構想を引き継いだような、世界的にも稀な師匠と弟子の協演と呼べる空間のアンサンブルが誕生する。しかし、残念なことに、管理上の理由から、西洋美術館の前庭は長い間柵で閉ざされ、

一九九七年の企画展示館増築の際にようやく開放される。また、前川が幕間の交流にと願って設けた大ホール・ホワイエのテラスも、長く閉鎖されたままで、生前の前川は開放された姿を見ることができなかった。その意味で、今回の前庭の復元は、六〇年以上の時を経て、初めて彼らの求めた風景が実現する歴史的な意味を持つものだと言えるだろう。さて、今回訪れて、何よりも驚いたのは、二〇二〇年四月に完成したJR上野駅公園口の改札口の移動と駅舎の改築による駅前広場の激変である。この周辺整備により、それまで駅前を南北に横切っていた道路が廃止されて横断歩道がなくなり、約百m北へ移動された改札口を出ると、目の前には、御影石の平板で舗装された幅広い歩道が約四百m先の動物園正門まで一直線に伸びている。また、改築された駅舎の二階からは、これまで見たことのなかった東京文化会館から西洋美術館へと水平に展開するパノラマのような伸びやかな光景が広がっていた。この駅前に初めて誕生した広場こそ、東京文化会館の計画段階で構想されていた駅前道路の全面地下化による広場創出の形を変えた実現に他ならないと思う。しかし、その一方で、駅舎の改築時に無自覚だったのか、二階テラスの前面に取り付けられた無粋な縦格子によって視界は遮られ、駅前広場の絶景を味わうことができない。また、来園者の多い動物園へのアクセスと見通しの良さを最優先させようと整備が進められたからなのだろう。西洋美術館と東京文化会館の間に生まれた対話的な空間のつながりも、幅

広い歩道により分断されてしまった。そして、何よりも残念なのは、この改札口から動物園正門へと続く幅広い歩道の直線化によって、緑陰を生んでいた多くの樹木が大量に伐採され、上野公園が持っていた場所ごとに異なる雰囲気の様相が大きく損なわれてしまったことである。幸いにも、駅前の整備に伴う樹木七本の伐採だけは、ある日そのことに気がついた一市民の呼びかけで急ぎよ結成された「上野公園の樹を守る会」の迅速な署名活動により、かろうじて守られたという。上野公園の再整備によるテーマパーク化はどこまで進むのだろうか。誰のものでもない静かな憩いの公共空間を守り育てることがなぜできないのか。還暦を迎えた音楽の殿堂、東京文化会館は、静かにその行方を見守っている。



上野駅改札口前から望む外観現況



小ホールへのスロープで語り合う浜口隆一、宮内嘉久・中田準一（左から）一九九四年秋

最後に、余談ながら、手元に残る一枚の写真を紹介したい。これは、一九九四年秋、建築評論家の浜口隆一（一九一六―一九五九）が、編集者の宮内嘉久（一九二六―二〇〇九年）と共に、前川事務所の中田準一の案内で、ホワイエ壁面の流政之（一九二三―二〇一八年）のレリーフ作品による化粧直しを終えた東京文化会館を見学した際のものだ。前年から巻き起こった神奈川県立図書館・音楽堂（一九五四年）の取り壊し問題で精力的な発言を重ねていた浜口さんと宮内さんは、しみじみと館内を眺めていた。その音楽堂も、二〇二一年八月、神奈川県重要文化財に指定された。今はただ、彼らが見ることのできなかった音楽堂の重文化と東京文化会館前の広場完成の歴史的な意味を噛み締めておきたい。

最後に、余談ながら、手元に残る一枚の写真を紹介したい。これは、一九九四年秋、建築評論家の浜口隆一（一九一六―一九五九）が、編集者の宮内嘉久（一九二六―二〇〇九年）と共に、前川事務所の中田準一の案内で、ホワイエ壁面の流政之（一九二三―二〇一八年）のレリーフ作品による化粧直しを終えた東京文化会館を見学した際のものだ。前年から巻き起こった神奈川県立図書館・音楽堂（一九五四年）の取り壊し問題で精力的な発言を重ねていた浜口さんと宮内さんは、しみじみと館内を眺めていた。その音楽堂も、二〇二一年八月、神奈川県重要文化財に指定された。今はただ、彼らが見ることのできなかった音楽堂の重文化と東京文化会館前の広場完成の歴史的な意味を噛み締めておきたい。

最後に、余談ながら、手元に残る一枚の写真を紹介したい。これは、一九九四年秋、建築評論家の浜口隆一（一九一六―一九五九）が、編集者の宮内嘉久（一九二六―二〇〇九年）と共に、前川事務所の中田準一の案内で、ホワイエ壁面の流政之（一九二三―二〇一八年）のレリーフ作品による化粧直しを終えた東京文化会館を見学した際のものだ。前年から巻き起こった神奈川県立図書館・音楽堂（一九五四年）の取り壊し問題で精力的な発言を重ねていた浜口さんと宮内さんは、しみじみと館内を眺めていた。その音楽堂も、二〇二一年八月、神奈川県重要文化財に指定された。今はただ、彼らが見ることのできなかった音楽堂の重文化と東京文化会館前の広場完成の歴史的な意味を噛み締めておきたい。

MONOTON



SUTTO





箕面川に面したオープンスペース、自然と調和できる開放的な空間を新たに創造 *1



旧橋本亭で最も特徴的であった対岸から臨む一面のガラス格子建具群を受け継ぎ建物の命と情景を継承 *2